

区長会役員会（2／10）における小野寺青森市長と奥山仙台市長の挨拶

【小野寺青森市長の挨拶】

青森市長の小野寺晃彦でございます。

昨年6月25、26日の2日間、青森市で開催された「東北六魂祭2016青森」に特別区長会で取り組まれている「特別区全国連携プロジェクト」の一環として、多大なご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

特別区長会からの支援金につきましては、六魂祭青森開催PRのため、23区内で掲出、配布していただきました、ポスターをはじめとするPRグッズ制作や、イベントの目玉であります東北六魂祭パレードなど、祭りの運営全般に活用させていただきました。

六魂祭初日の開催式には、西川会長、武井副会長、坂本副会長、田中中野区長の4区長にご出席いただきました。また、メイン会場内に設置されました東京23区・特別区長会のPRブースは、来場者による長蛇の列ができるほどの大盛況ぶりだったと報告を受けております。当日は、風が強く、一部プログラムの変更もございましたが、2日間で約27万人もの来場者で賑わい、東北六魂祭一巡開催のフィナーレを飾ることができました。

東日本大震災の「鎮魂と復興」を願うイベントを継続していくという東北6市の想いもでございます。この後、奥山仙台市長から、後継のイベントを続けていきたいという想いを説明させていただきますが、特別区長会と東北との絆がより強く結ばれていくことを心から願っております。

最後に、特別区長会と青森県市長会、青森県町村会との間で観光や経済、文化などさまざまな分野で連携する協定を昨年締結したところでございます。こちらにつきましても、市長会、町村会を挙げて、引き続き交流を進めてまいりたいと考えております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

本日は、このように皆様にご挨拶する貴重な場を設けていただき、御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

【奥山仙台市長の挨拶】

仙台市長の奥山恵美子でございます。

ただ今、小野寺青森市長からお話ございましたが、昨年は多大なるご支援をいただき、本当にありがとうございました。青森市と中野区のご縁から始まり、東北六魂祭を秋田市に続いて、2年続けてご支援いただきました。お陰様で一巡目の立派なフィナーレを飾ることができ、大変嬉しい思いでした。

一巡する6年間で被災地の復興も進んでまいり、公営住宅の建設、防災集団移転など、8割、9割に達してきましたが、ご承知のとおり、福島につきましては、まだまだというところもございまして、我々被災地としては、引き続き「鎮魂と復興」という東北六魂祭の中心的なテーマをさらに掲げて、二巡目にチャレンジしていきたいと考えております。

本年の6月10日、11日に仙台を会場に二巡目の皮切りとして、「東北絆まつり」の取り組みを進めて参りたいと考えております。この震災で世界中から色々な支援をいただき、東京23区とも新しい絆を結ぶことができました。このようなご縁をしっかりと将来につないでいけるようなお祭りにしていきたいと思っております。

さきほど、いただいたご支援の中から、色々とPRさせていただいたということを申し上げましたが、昔で言うならば、集団就職というようなところから始まり、人材供給地として、東北は首都圏と大変深いご縁でつながれてきたと思っております。そのような方々も東北六魂祭に実際に行くことができなくとも、そのPRに触れ、23区とのつながりを実感していただくことで、ふるさとと東京の架け橋になっていると思っただけなのではないかと思っております。

また、去年は新たに「東京新虎まつり」の中に東北六魂祭を登場させていただき、新しいステージを与えていただいたことに心から感謝申し上げます。

最後になりますが、東北6市が総力をあげて、新しい形での「東北絆まつり」を続け、都民の皆様にも喜んでいただきたいと思っております。引き続きのご支援をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。



(前列左から) 奥山仙台市長、西川特別区長会会長、小野寺青森市長、(後列左から) 成澤文京区長、保坂世田谷区長、吉住新宿区長、坂本特別区長会副会長、山本墨田区長